

指導教員名	秦 洋二
-------	------

活動区分	地域活性化型	連携先	企業
	情報分析型		自治体・団
			住民組織

～ 鮎屋(あいや)地区の活性化 -キャンプ場活用提案- ～

活動の様子



キャンプ場開発予定地の見学風景
(2021.6.27撮影)



中間報告会での発表の様子(2021.8.21撮影)

企画・活動概要

秦ゼミでは、大学で学んだ流通・マーケティングの理論を単なる知識で終わらず、様々な機会を利用して実践につなげていくことを目的に活動しています。特に重視しているのはマーケティングの現場を自分の足で歩き、現地を自分の目で確かめる「フィールドワーク」です。理論と実践はいわば車の両輪であり、両方が揃って初めて大きな成果が得られます。そのため、秦ゼミでは毎年様々な域学連携プロジェクトに参加しています。今年度は3回生18名が「洲本市×流通科学大学 域学連携プロジェクト」に取り組みました。

取り組む課題

今回の「洲本市×流通科学大学 域学連携プロジェクト」の具体的な活動内容は以下の2つです。
 ①鮎屋(あいや)地区の活性化提案
 ②AWAJISHIMA Sodatete Marketのプロモーション、マーケティング、広報提案
 学生はこの2つの課題のうち興味のある方を選び、グループに分かれて自分たちの提案内容を考えました。今回、学生は「鮎屋(あいや)地区の活性化提案」に取り組みました。

本学(学生)の役割

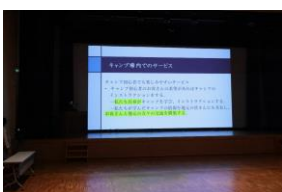
本企画は、洲本市と流通科学大学の域学連携プロジェクトの一環であり、鮎屋地区の活性化について、流通科学大学の学生が企画・提案を行うものです。プロジェクトに参加した学生は実際に鮎屋地区を訪問し、地域が抱える課題等について現地のNPO法人の方々からお話を伺うなど、地域の実情について理解を深めました。その上で現在、鮎屋地区で計画が進んでいる棚田跡地へのキャンプ場開発に対して、設備面やプロモーションについての提案を行いました。



学生が作成したパンフレット(2021.10.9撮影)

経緯・背景・目的

本企画の目的は洲本市という地域を舞台に行われている様々な取り組みについて理解を深め、地域の課題解決に向けた提案をすることです。今回の企画に参加した秦ゼミの学生は、全員2年生時に淡路島を題材とした現地フィールドワークに参加し、またその際に全員がテーマを定めて、フィールドに関する資料作成などを行った経験があります。今回の域学連携プロジェクトでもこうした経験を生かして現地視察を行い、また地域のひととの対話の中で地域の魅力について学び、課題の解決方法について考察しました。



最終報告会での発表の様子(2021.10.9撮影)

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回の域学連携プロジェクトを通じて参加した学生は様々なことを学びました。特に昨今はコロナウイルス蔓延という状況下であり、その面での苦労もありましたが、学生は実際に現地に足を運ぶことの重要性を学ぶことが出来たと思います。まさに百聞は一見にしかずです。しかし、それと同じくらい現地に行く前の「事前準備」の大切さも実感していたように思います。フィールドについて勉強した上で現場を見ると、何もせずに行くのとは同じものを見ても感じ方が全く変わってきます。今回の域学連携プロジェクトを通じて学生は理論と実践を両立することの重要性を理解できたのではないのでしょうか。今回のプロジェクトでお世話になりました皆様へ、心から御礼申し上げます。



最終報告会での集合写真(2021.10.9撮影)

指導教員および関係者の紹介



<指導教員>
 商学部
 マーケティング学科
 教授
 秦 洋二(ハタ ヨウジ)
 <専門・担当科目等>
 流通・マーケティング、経済地理学

<関係者・企業等>
 ・Awajishima Sodatete Market
 ・NPO法人 鮎屋の滝ふれあいの郷
 ・洲本市